

## 【略 歴】

- 1908年(明治41) 2月15日、山形県山形市宮町に生まれる。  
桜井家は周辺有数の素封家で、機業をはじめ様々な事業を行っていた。
- 1920年(大正9) 山形県山形第一高等女学校(現・山形県立山形西高等学校)に入学。  
東京美術学校(現・東京藝術大学)卒業の図画教師に指導を受け、絵画制作に興味を持つ。
- 1926年(大正15) 生家を出奔、上京。川端画学校、岡田三郎助の研究所に学ぶ。
- 1928年(昭和3) 1930年協会洋画研究所に入り、里見勝蔵に学ぶ。
- 1931年(昭和6) 独立美術協会の第1回「独立展」に入選。以後、出品を続ける。
- 1932年(昭和7) 東京帝国大学(現・東京大学)英文科出身の秋沢三郎と結婚。秋沢の友人、太宰治、壇一雄らが頻繁に出入りする。
- 1934年(昭和9) 三岸節子ら独立展出品の女性画家11名と女艸会を結成し、第1回展を開催。
- 1939年(昭和14) 離婚。東京府三鷹町(現・市)に転居。後にアトリエを建て、生涯の制作の地となる。
- 1940年(昭和15) 「紀元2600年奉祝品展」に出品(東京府美術館)。
- 1946年(昭和21) 「現代女流画家展」を三岸らと開催。同展に出品した『壺』(東京国立近代美術館蔵)を美術評論家の田近憲三が購入し、注目される。
- 1947年(昭和22) 女流画家協会を雑賀文子、佐伯米子、仲田好江、三岸節子らと創立。  
第1回「アンデパンダン女流画家協会展(後に女流画家協会展と改称)」を開催。  
以後、出品を続ける。
- 1948年(昭和23) 第16回「独立展」で『人物』が独立賞を受賞。
- 1949年(昭和24) 第1回個展を開催(東京・北荘画廊)。  
『みづゑ』(第521号)に美術評論家・今泉篤男の「桜井浜江論」が掲載。
- 1954年(昭和29) 独立美術協会会員となる。
- 1960年(昭和35) 「日米女流美術交歓展」に出品(ニューヨーク・リバーサイド美術館)。
- 1961年(昭和36) 「近代百年を彩る・女流画家展」に出品(東京・高島屋)。
- 1980年(昭和55) 第1回「日本の美 現代美術女流展」に出品。以後、出品を続ける。
- 1981年(昭和56) 第1回「現代の女流画家展(後に女流画家展と改称)」に出品。以後、出品を続ける。
- 1992年(平成4) 独立美術協会より会員功労賞を受ける。
- 1995年(平成7) 「桜井浜江一画業65年の軌跡」を開催(東京・青梅市立美術館)。
- 2000年(平成12) 「桜井浜江個展一画業70年記念」を開催(東京・夢土画廊)。
- 2001年(平成13) 「奔る女たち 女性画家の戦前・戦後」に『途上』など5点が展示(栃木県立美術館)。
- 2003年(平成15) 「輝け日本油画一独立美術協会70回記念」に、第24回展出品の『樹』を展示(東京・高島屋)。
- 2004年(平成16) 「三岸節子 絵画の自由を求めて一独立美術協会と女流画家」に『白い風景』など9点を展示(愛知・一宮市三岸節子記念美術館)。
- 2006年(平成18) 「女流画家協会60周年記念展」に『富士』を展示(上野の森美術館)。
- 2007年(平成19) 2月12日 死去。享年98歳。  
第75回「独立展」に未完の絶筆『富嶽』が展示される(東京・国立新美術館)。
- 2008年(平成20) 「生誕100年画 桜井浜江展」開催(山形美術館、一宮市三岸節子記念美術館)。  
他 展覧会への出品、個展開催多数。

松平修文様 編纂、山形美術館、一宮市三岸節子記念美術館発行の「桜井浜江展」図録に掲載された年譜を基に作成いたしました。